

民間競争入札実施事業  
「H28-31 国営明石海峡公園運営維持管理業務」の実施状況報告

基本方針に基づく標記事業の実施状況は以下のとおり。

事業の概要等

事 項	内 容
事業概要	<p>国営明石海峡公園（淡路地区・兵庫県淡路市、神戸地区・兵庫県神戸市北区）における運営維持管理業務</p> <p>本業務全体のマネジメント及び企画立案業務</p> <p>1) マネジメント</p> <p>2) 企画運営管理</p> <p>施設・設備維持管理業務</p> <p>1) 維持修繕・保守点検</p> <p>2) 清掃</p> <p>植物管理業務</p> <p>収益施設等管理運営業務</p>
実施期間	平成28年4月1日から平成32年1月31日までの 3年間10ヶ月
受託事業者	H28-31 国営明石海峡公園運営維持管理業務 国営明石海峡公園 管理兵庫県・神戸市公園協会グループ共同体
契約金額（税抜）	<p>2,575,800,000円</p> <p>平成28年度：671,947,000円</p> <p>平成29年度：671,947,000円</p> <p>平成30年度：671,947,000円</p> <p>平成31年度：559,959,000円</p>
入札の状況	1者応札（入札説明書交付者＝5者）
事業の目的	本業務は、本公園において、国営公園設置の意義を踏まえ、公園の運営維持管理全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、利用促進

	<p>のための行催事や広報宣伝の企画・立案・実施、入園料徴収、巡視・保安警備、公園利用者に対するサービスの提供、利用指導、救急、公園利用者の安全・安心の確保、地域貢献や市民等との協働、他の施設管理者との連携、建物や工作物等公園施設の維持管理、清掃、植物の育成・維持管理、収益施設の運営など多岐にわたる業務を総合的な調整のもと、相互連携を保ち、適切に進捗管理を行いつつ実施するものであり、その効用を最大限発揮させることを目的とする。</p>
選定の経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針への掲載 平成 22 年度</li> <li>・市場化テスト事業としての事業実施回数 2 回目</li> <li>・新プロセスへの移行 平成 28 年度</li> </ul>
特記事項 (改善指示・法令違反行為等の有無)	<p>本業務において、業務に係る法令違反行為はなかった。また、重大な事故発生や著しい業務の質の低下など、業務の適正かつ確実な実施を確保するために、競争の導入による公共サービスの改革に関する法律第 26 条における報告の徴収等及び同法第 27 条における指示等が必要な状況はなかった。</p>

## 評価

### 1. 事業の質に関する評価

本業務においては、「H28-31 国営明石海峡公園運営維持管理業務民間競争入札実施要項」(以下「実施要項」という。)により、サービスの質として、「包括的な質」と「個別業務の質」を設定しているところである。

このサービスの質について達成状況を確認するため、実施要項に記載された方法により実施したモニタリング調査の結果等について報告する。

#### (1) 包括的な質

##### 1) 公園利用者数の確保

淡路地区の利用者数

##### ア 達成すべき質

年間及び四半期ごとの有料区域の公園利用者数

- ・平成 28 年度、平成 29 年度：年間 222,635 人以上
- 第 1 四半期 81,537 人以上、第 2 四半期 72,644 人以上、
- 第 3 四半期 31,956 人以上、第 4 四半期 36,498 人以上

##### イ 結果

- ・平成 28 年度の利用者は年間 221,531 人となり達成すべき質は確保されなかった。

また、その内訳は、第1四半期 86,096 人、第2四半期 52,629 人、第3四半期 39,936 人、第4四半期 42,870 人となっており、第2四半期では達成すべき質が確保されなかったため、国からは文書により業務改善を指示した。

受注者が要因分析を行った結果、と第2四半期では、猛暑に加え8月～9月の台風や秋雨前線の停滞により天候不順であったことを挙げている。

第2四半期の不足分を早期に回復すべく、第3四半期以降に秋のカーニバル(9月～11月)、きみもみらいの宇宙博士になれる(1月～2月)をはじめとする様々なイベントについて積極的な誘客活動を行うことにより、10月以降の入園者はH14年の開園以来1番、または2番を記録する入園者数があった。

これらの要因と対策を鑑みると、年間数値は達成すべき質を若干下回っているものの同程度の質であると評価できる。

- ・平成29年度の利用者は247,185人となり、達成すべき質は確保された。

また、その内訳は、第1四半期 98,929 人、第2四半期 56,588 人、第3四半期 46,191 人、第4四半期 45,447 人となっており、第2四半期では達成すべき質が確保されなかったため、国からは文書により業務改善を指示した。受注者が要因分析を行った結果、8月～9月の台風や秋雨前線の停滞により天候不順であったことを挙げている。

第2四半期の不足分を早期に回復すべく、第3四半期は天候不良日が多かったものの、過年度より国営公園での開催の誘致を進めてきたロハスフェスタ、トライアスロン大会、運動会イベントが予定どおり開催されたことにより、昨年度より15%上回る公園利用者に来園して頂くことができた。第4四半期においては、気温が低かった日が多かったため、昨年度に比べ若干来園者が減少したものの、年間では達成すべき質が確保された。

表1 淡路地区の利用者確保

達成すべき質	平成28年度実績	平成29年度実績
年間 222,635 人以上	221,531 人	247,185 人
第1四半期 81,537 人以上	86,096 人	98,929 人
第2四半期 72,644 人以上	52,629 人	56,588 人
第3四半期 31,956 人以上	39,936 人	46,191 人
第4四半期 36,498 万人以上	42,870 人	45,447 人

## 神戸地区の利用者数

### ア 達成すべき質

#### 年間及び四半期ごとの有料区域の公園利用者数

- ・平成28年度：年間87,000人以上  
第2四半期32,000人以上、第3四半期40,000人以上、  
第4四半期15,000人以上
- ・平成29年度：年間140,000人以上  
第1四半期53,000人以上、第2四半期32,000人以上、  
第3四半期40,000人以上、第4四半期15,000人以上

### イ 結果

平成28年度の利用者は25,762人、平成29年度の利用者は39,795人と、両年とも達成すべき質を確保されなかった。

この原因として、包括的な質の設定にあたっては、業務を開始後に開園を予定していたため開園前の実績が無く、また、近隣に土地の歴史・文化を含めた自然環境を保全する特性を持った公園が近隣にないことから、特性は異なるが都市部からの距離が類似し、神戸地区と同様に有料の公園の実績や、当地区が一部開園であることから淡路地区が一部開園した際の実績を参考に14万人と設定していたが、開園後には参考とした公園との特性等の違いが想定以上に利用者数の減少に影響を及ぼしていること等があげられる。よって、次期業務における質の設定にあたっては、開園後の来園者数の実績をもとに、適正な質の設定を行っていきたいと考えている。

一方、受注者においては、達成すべき質を確保するため、夏休みイベントとして昆虫少年少女をテーマに一般募集も含めたイベント「今や絶滅危惧種?!神戸の昆虫少年少女展」を新規事業として実施した。また、里地里山の自然環境を楽しむイベントとして、夜の生き物観察プログラムとして「里山ホテル観察会」、早朝の活動が活発な鳥類や早朝に開花する植物などの観察会を夜間開園や早朝開園を新規事業として実施した。

広報活動としては、年間50回の季節感のあるプレスリリースを行うと共に、神戸市バスに「あいな里山公園」PRのラッピング広告・中吊り広告、神急行・神戸電鉄の車内吊り、主要駅ポスターの年間広告、シネマ神戸ハーバーランド9スクリーン(映画館)でのスポットCM放映、ラジオ関西にてCMを15回放送、近隣大型集客施設でのデジタルサイネージの掲出など積極的な広報を実施した。

併せて、北あかし市民広場、みなと銀行本店ギャラリー、神戸市役所花時計ギャラリー、神戸市生涯学習センターギャラリー、明石公園、かかしサミット(姫路市)、神戸総合運動公園でのヴィッセル神戸試合開催時ブース出展等イベント会場

等でのチラシ配布、パネル展示の広報活動を実施した。

さらに団体誘致の強化として、大企業・団体へ営業を行い、企業や建設業協会、LPガス協会等に対してレクリエーションの場として当公園を利用して頂くよう誘致活動を行い、UCC珈琲グループ、阪急阪神百貨店グループと施設契約した。

教育関係では、神戸市の学校長会（小学校・中学校）や三田市内の小中学校 16校に対して環境学習の場として当公園を活用して頂くよう個別に説明を行った。

既存イベントの拡充としては、早くから広報を開始し周知を図るために「あいな四大まつり」の「田植えまつり」「やまもまつり」と隣接するキーナの森との連携事業の開園一周年記念フォーラムを併せて「あいな里山夏フェスタ」として開催した。

これらの要因と対策を鑑みると、未開園時に設定した達成すべき質を下回っているものの、開園後の利用促進については適切に実施されたと評価できる。

表2 神戸地区の利用者確保

平成28年度達成すべき質	平成28年度実績
年間 87,000人以上	25,762人
第1四半期 -	-
第2四半期 32,000人以上	7,970人
第3四半期 40,000人以上	11,477人
第4四半期 15,000人以上	6,315人

平成29年度達成すべき質	平成29年度実績
年間 140,000人以上	39,795人
第1四半期 53,000人以上	15,937人
第2四半期 32,000人以上	8,145人
第3四半期 40,000人以上	8,906人
第4四半期 15,000人以上	6,807人

## 2) 利用者満足度の確保

淡路地区における公園の運営に関する利用者の「満足」「やや満足」の回答比率

### ア 達成すべき質

・平成28年度、平成29年度：年間89%以上

第1四半期91%以上、第2四半期85%以上、第3四半期92%以上、第4四半期86%以上

## イ 結果

- ・平成28年度は、「満足」「やや満足」の回答比率が年間で86.6%となり、達成すべき質を確保することができなかった。

また、その内訳は、第1四半期87.2%、第2四半期91.9%、第3四半期85.6%、第4四半期79.3%となっており、第1四半期、第3四半期、第4四半期において達成すべき質が確保されなかったため、国からは文書により業務改善を指示した。

受注者が要因分析を行った結果、一部の花木において草花のネームプレートの不備による、来園者の不満が挙げられた。

この要因を踏まえ名称プレートを増設することにより第2四半期は達成すべき質を確保した。

しかし、第3・4四半期は花木の見どころが分かりにくいとの声があり、季節に応じた花木の見どころをPR出来なかったことが原因として挙げている。

この要因を踏まえ「花木の見どころカレンダー」を掲示することにより来園者への見どころ案内に努めた。

以上の取組により利用者への満足度確保に努めていくこととしている。

これらの要因と対策を鑑みると、年間数値は達成すべき質を若干下回っているものの同程度の質であると評価できる。

- ・平成29年度は、「満足」「やや満足」の回答比率が年間で85.3%となり、達成すべき質を確保することができなかった。

また、その内訳は、第1四半期82.3%、第2四半期87.8%、第3四半期87.0%、第4四半期84.1%となっており、第2四半期を除いて、年間での達成すべき質が確保されなかったため国からは文書により業務改善を指示した。

受注者が要因分析を行った結果、主な理由として、第1四半期では園内施設に対する案内に関する満足度が低かったことを挙げている。そこで、対策としてガイドマップの配布やスタッフを対象とした接遇について研修を実施することにより、第2四半期は達成すべき質を確保した。

第3・4四半期ではスタッフの対応サービス、公園利用者の立場での接遇が徹底されていないことを挙げている。

この要因を踏まえ、来園者のサービス満足度向上を目指し、朝礼や定例会における注意喚起や接客状況の点検及び現場スタッフへの接遇研修などを実施した。

以上の取組により利用者への満足度確保に努めていくこととしている。

これらの要因と対策を鑑みると、年間数値は達成すべき質を若干下回っているものの同程度の質であると評価できる。

表3 淡路地区における公園の運営に関する「満足」「やや満足」の回答比率

達成すべき質	平成28年度実績	平成29年度実績
年間 89%以上	86.0%	85.3%
第1四半期 91%以上	87.2%	82.3%
第2四半期 85%以上	91.9%	87.8%
第3四半期 92%以上	85.6%	87.0%
第4四半期 86%以上	79.3%	84.1%

神戸地区における公園の運営に関する利用者の「満足」「やや満足」の回答比率

ア 達成すべき質

- ・平成28年度：年間70%以上  
第2四半期70%以上、第3四半期70%以上、第4四半期70%以上
- ・平成29年度：年間70%以上  
第1四半期70%以上、第2四半期70%以上、第3四半期70%以上、第4四半期70%以上

イ 結果

- ・平成28年度は、「満足」「やや満足」の回答比率が年間で75.5%となり、達成すべき質は確保された。  
また、その内訳は、第2四半期75.5%、第3四半期75.2%、第4四半期75.7%となっており、第2四半期から第4四半期の全てで達成すべき質が確保された。
- ・平成29年度は、「満足」「やや満足」の回答比率が年間で77.3%となり、達成すべき質は確保された。  
また、その内訳は、第1四半期65.4%、第2四半期86.2%、第3四半期78.2%、第4四半期79.5%となっており、第1四半期において達成すべき質が確保されなかったため、国からは文書により業務改善を指示した。

受注者が要因分析を行った結果、体験イベントに参加した来園者からは非常に楽しめたとの意見が多かった。

この要因を踏まえ、体験イベントを充実していくこととし、第2四半期以降、農業体験イベント等をさらに充実したところ、第2四半期から第4四半期で達成すべき質が確保された。

表4 神戸地区における公園の運営に関する「満足」「やや満足」の回答比率

達成すべき質	平成28年度実績	平成29年度実績
年間 70%以上	75.5%	77.3%
第1四半期 70%以上	-	65.4%

第2四半期 70%以上	75.5%	86.2%
第3四半期 70%以上	75.2%	78.2%
第4四半期 70%以上	75.7%	79.5%

### 3) 公園特性を生かした植物管理

淡路地区における緑の量や花の演出に関する「満足」「やや満足」の回答比率

#### ア 達成すべき質

- ・平成28年度、平成29年度：年間85%以上

第1四半期92%以上、第2四半期82%以上、第3四半期88%以上、第4四半期77%以上

#### イ 結果

- ・平成28年度は、「満足」「やや満足」の回答比率が年間で79.9%となり、達成すべき質を確保することができなかった。

また、その内訳は、第1四半期85.6%、第2四半期87.7%、第3四半期81.4%、第4四半期52.7%となっており、第1四半期、第3四半期、第4四半期において達成すべき質が確保されなかったため、国からは文書により業務改善を指示した。

受注者が要因分析を行った結果、花修景を楽しめる場所がわかりにくかったこと、また特に冬季においては他の季節に比べ緑や花の量が少ないことが影響したことを挙げている。

この要因を踏まえ、各ゲートでの案内板や見頃の花情報の掲示を行うとともに、冬季には温暖な淡路島の気候を生かした花修景の拡充等の取組により利用者への満足度確保に努めていくこととした。

- ・平成29年度は、「満足」「やや満足」の回答比率が年間で77.4%となり、達成すべき質を確保することができなかった。

また、その内訳は、第1四半期85.6%、第2四半期84.6%、第3四半期81.4%、第4四半期58.0%となっており、第1四半期、第3四半期、第4四半期において達成すべき質が確保されなかったため国からは文書により業務改善を指示した。

受注者が要因分析を行った結果、花の存在感を高める演出効果や花に対する情報量の不足が回答に影響したことを挙げている。

その改善策として、面的なボリュームだけでなく多様性に富んだ花の演出や長く見せられる開花時期の工夫等を行い、特に冬季については、人気のあるクリスマスローズや早咲きのサクラ類を紹介するリーフレットの配布等で花の存在を広報する等の取組により利用者への満足度確保に努めていくこととした。

これらの要因と対策を鑑みると、年間数値は達成すべき質を若干下回っているものの同程度の質であると評価できる。



表5 淡路地区における緑の量や花の演出に関する「満足」「やや満足」の回答比率

達成すべき質	平成28年度実績	平成29年度実績
年間85%以上	76.9%	77.4%
第1四半期92%以上	85.6%	85.6%
第2四半期82%以上	87.7%	84.6%
第3四半期88%以上	81.4%	81.4%
第4四半期77%以上	52.7%	58.0%

神戸地区における緑の量や花の演出に関する「満足」「やや満足」の回答比率

ア 達成すべき質

- ・平成28年度：年間60%以上  
第2四半期60%以上、第3四半期60%以上、第4四半期60%以上
- ・平成29年度：年間60%以上  
第1四半期60%以上、第2四半期60%以上、第3四半期60%以上、第4四半期60%以上

イ 結果

- ・平成28年度は、「満足」「やや満足」の回答比率が年間で68.0%となり、達成すべき質は確保された。  
また、その内訳は、第2四半期72.2%、第3四半期68.3%、第4四半期63.6%となっており、第2四半期から第4四半期の全てで達成すべき質が確保された。
- ・平成29年度は、「満足」「やや満足」の回答比率が年間で72.3%となり、達成すべき質は確保された。  
また、その内訳は、第1四半期62.2%、第2四半期81.0%、第3四半期75.8%、第4四半期70.3%となっており、第1四半期から第4四半期の全てで達成すべき質が確保された。

表6 神戸地区における緑の量や花の演出に関する「満足」「やや満足」の回答比率

達成すべき質	平成28年度実績	平成29年度実績
年間60%以上	68.0%	72.3%
第1四半期60%以上	-	62.2%
第2四半期60%以上	72.2%	81.0%
第3四半期60%以上	68.3%	75.8%
第4四半期60%以上	63.6%	70.3%

#### 4) 多様なプログラムの提供

淡路地区における利用プログラムの年間開催回数、延べ参加人数

##### ア 達成すべき質

- ・平成28年度、平成29年度

：開催回数 131 回以上、延べ参加人数 44,550 人以上

##### イ 結果

- ・平成28年度の開催回数は 169 回、延べ参加人数 90,068 人となり、達成すべき質は確保された。
- ・平成29年度の開催回数は 175 回、延べ参加人数 79,304 人となり、達成すべき質は確保された。

表7 淡路地区における利用プログラムの年間開催回数、延べ参加人数

達成すべき質	平成28年度実績	平成29年度実績
年間開催回数 131 回以上	169 回	175 回
年間延べ参加人数 44,550 人以上	90,068 人	79,304 人

神戸地区における利用プログラムの年間開催回数、延べ参加人数

##### ア 達成すべき質

- ・平成28年度：7月～3月開催回数 18 回以上、延べ参加人数 11,900 人以上
- ・平成29年度：年間開催回数 24 回以上、延べ参加人数 19,200 人以上

##### イ 結果

- ・平成28年度の開催回数は 132 回、延べ参加人数 12,166 人となり、達成すべき質は確保された。
- ・平成29年度の開催回数は 198 回、延べ参加人数 22,705 人となり、達成すべき質は確保された。

表8 神戸地区における利用プログラムの年間開催回数、延べ参加人数

達成すべき質	平成28年度実績	平成29年度実績
年間開催件数		
平成28年度 18回以上	132回	198回
平成29年度 24回以上		
年間延べ参加人数		
平成28年度 11,900人以上	12,166人	22,705人
平成29年度 19,200人以上		

5) 情報受発信

マスコミによる報道件数

ア 達成すべき質

- ・平成28年度：519件以上
- ・平成29年度：549件以上

イ 結果

- ・平成28年度の報道件数は314件となり、達成すべき質は確保された。
- ・平成29年度の報道件数は754件となり、達成すべき質は確保された。

表9 マスコミによる報道件数

達成すべき質	平成28年度実績	平成29年度実績
年間報道件数	602件	754件
平成28年度 519件以上	(淡路地区 424件)	(淡路地区 465件)
平成29年度 549件以上	神戸地区 178件)	神戸地区 289件)

ホームページの総アクセス件数

ア 達成すべき質

- ・平成28年度：307,456件以上
- ・平成29年度：340,556件以上

イ 結果

- ・平成28年度の年間総アクセス数は533,390件となり、達成すべき質は確保された。
- ・平成29年度の年間総アクセス数は644,675件となり、達成すべき質は確保された。

表 10 ホームページの総アクセス件数

達成すべき質	平成 2 8 年度実績	平成 2 9 年度実績
年間総アクセス件数	533,390 件	644,675 件
平成 28 年度 307,456 件以上	(淡路地区 461,156 件	(淡路地区 534,834 件
平成 29 年度 340,556 件以上	神戸地区 72,234 件)	神戸地区 109,841 件)

( 2 ) 個別業務の質

ア 達成すべき質

以下に示す個別業務の質を確保すること。

本業務全体のマネジメント及び企画立案業務

多岐にわたる業務について適切な目標を定め、総合的な調整のもと相互連携を保ちつつ、実施の方法が決定され、さらに、これらの業務を統括し、適切な進捗管理が行われていること。

また、入園料の徴収、国庫への納入などを行うこと。その他本業務が円滑に行われるための諸業務を実施すること。

企画運営管理業務

公園利用者の満足度が高いレベルで保たれていることを目的とし、多種多様な公園利用者のニーズを適切に把握したうえで、指定された業務内容を実施し、公園利用者への適切な指導・サービス、利用促進のための行催事、公園ボランティアとの良好な連携に向けた支援・調整を行うとともに、常時適切な広報、情報発信を行い認知度を向上すること。

施設・設備維持管理業務

1) 維持修繕・保守点検

建物、園路広場、電気設備、汚水・排水施設等の性能が常時適切な状態で保たれているとともに、公園利用者の安全が確保されていることを目的とし、指定された業務内容を実施し、建物、園路広場等の機能及び劣化の状態を調査するとともに、異常又は劣化がある場合は、必要に応じ対応措置が判断・実行されていること。

2) 清掃

快適な公園環境が保たれていることを目的とし、指定された業務内容を実施し、施設内外の汚れを除去し、又は汚れを予防すること。

植物管理業務

本公園の意義や役割、機能を踏まえた演出を目的とし、公園全体の利用状況、景観、季節、及び生物の生育環境等に応じ、自生植物や園芸植物、農作物等の特性にあった年間管理計画を作成し、植物が常に良好な状態にあること。また、神戸地区にあたっては、水田・耕作地の景観保全に配慮し、かつ農作物（果樹を含む）について里山体験メニューに供する管理ができていていること。樹林地について

は、あらかじめ作成した計画に基づき、利用や鑑賞に適した質の向上が図られること。

#### 収益施設等運營業務

公園利用者へのサービス向上を目的とし、公園管理の包括的・統一的な管理のもと、公園運営維持管理業務との連携調整を図りながら、公園利用者の利便性が高まり、安全・快適かつ清潔な環境が保たれていること。また、自主事業を行う場合は、公園の利便性や魅力をより一層高めるよう適切に行うこと。

#### イ 結果

個別業務の質に関する履行確認は、調査職員が項目に応じた履行確認を書面及び現地立ち会いにより実施している。

平成28年度及び平成29年度において、運営維持管理業者から調査職員に対して適切に月別作業企画書、実績書が提出され、調査職員により計画通りの履行を確認しており、個別業務の質が確保されていることを確認した。

#### (3) 民間事業者からの改善提案による改善実施事項

民間事業者からは、企画提案時及び業務を履行するなかで、以下のようなサービス向上のための提案が出されており、これらの提案については、毎月開催される連絡調整会議（調査職員と事業者との定例の意見交換の場）等で調整を行い実施している。

#### 実施状況

平成28年度の企画提案の主な実施内容

##### < 淡路地区 >

- ・一年中楽しめる海辺の園遊空間の創出による魅力づくり

淡路地区において、春のチューリップ及び秋のコスモスの花風景について、広大なランドスケープを生かし、季節観のある配色デザイン等を充実させた。さらに夏にはヒマワリ畑の他、涼を楽しむ空間として「エコガーデン」を設け、冬から早春に向けては、「クリスマスローズ」による定番の花修景づくりや、「カワズザクラ」を育成管理するなど、一年中楽しめる海辺の園遊空間の創出による魅力づくりのための取り組みを行った。

##### < 神戸地区 >

- ・しあわせの村との連携

しあわせの村と園内を結ぶ送迎バスを運行し、利用客への利便性の向上に努めた。また、村内施設でのチラシ配布、案内及び村内で開催するイベントへ出展 PR、あいな里山公園の四大イベント時には村のレストランが臨時売店として出店するなど相互 PR を行うとともに夜間開催するプログラムではホテル宿泊客を対象とした連携を行った。

- ・二十四節気七十二候に基づく多様な里山学習プログラムの実施

毎日実施する里山体験メニューでは、当日募集・1時間程度で、季節ごとの農作業体験、里山4の暮らし体験、収穫体験を組み合わせ実施。土日祝日を中心として事前募集型を主とするプログラムは、2~4時間程度で、自然観察、里山管理、里山工作、耕作体験、食文化、歴史など多彩な内容で実施。四大まつりも継続実施し、開催期間を延長するなど集客に努めた。

平成29年度の企画提案の主な実施内容

#### < 淡路地区 >

##### ・早春における公園の魅力づくり

淡路地区は、寒桜やカワヅザクラを中心とする早咲きの桜で花見が楽しめる場所として定着しつつあるが、冬季は、他の季節と比べて花壇や花畑の草花が少ない時期であり、温暖な淡路島でいち早く春を告げる寒桜等に加えて、2月の新たな見どころづくりを行う必要があった。また、早春の時期には、一般のお客様から、ウメの開花についての問い合わせも増えていた。このため、今後の早春の利用促進を目的として、ウメによる花修景を実施した。

#### < 神戸地区 >

##### ・新規企画の実施

ゴールデンウィークに子ども向けイベント「あつまれ！里山っこ あいなであそぼう」を実施、開園1周年には記念イベントとしてフォーラムを開催した。また、夏休みには、昆虫採集大会や「今や絶滅危惧種?!神戸の昆虫少年少女展」を開催、生物多様性に富む公園の魅力をもっとPRするとともに、新たな顧客の開拓を行った。

##### ・イベントの拡充

四大まつりをそれぞれ拡充し、あいな里山夏フェスタ、秋フェスタ、冬フェスタとして実施し、集客を目指した。

##### ・里地里山風景の再現

伝統的な農事に伴い生育生息している植物の保全を図るとともに、来園者を満足させる里地里山の風景を目指し、春のヤマザクラ、初夏のヤブカンゾウ、夏のハス、秋のヒガンバナ・モミジ、冬はススキなどの整備を行った。

##### ・団体誘致の強化

小中学校の環境学習の誘致、旅行各社や教育旅行支店への営業、大手企業労働組合や子ども会への営業を実施した。

#### 評価

淡路地区における花修景の充実や、神戸地区の里山学習のプログラムの充実等、利用者サービスの質や満足度向上に向けた取り組みが進められている。また、小中学校の環境学習の誘致をはじめとする団体客の誘致については、実際に公園の来園者数の増加までには数年の時間を要するが、今後の利用者数の確保のための前向きな取り組みと考えられる。

## 2. 実施経費についての評価

従前経費と実施経費を比較すると、実施経費は従前経費に比べ 333,260 千円増加している。

この主な要因は、従前経費の供用面積が 39.5ha に対し実施経費の供用面積が 81.7ha と 42.2ha 増加したこと、及び公共工事設計労務単価の上昇によるものである。

よって、実施経費について、平成 28 年度の主な労務単価を平成 24 年度時点の労務単価に換算した上、平成 24 年度時点の供用面積 39.5ha（従前の面積）へ換算したところ、平成 24 年度の経費が 288,913 千円に対し、平成 28 年度の経費が 288,317 千円となり、596 千円（0.21%）の経費削減が図られたと評価できる。

項目	金額	増減要因の分析等を反映した金額
従前経費 (税抜)(A)	288,913,000 円 (平成 24 年度)	288,913,000 円 (平成 24 年度)
実施経費 (税抜)(B)	3 年 8 ヶ月：2,385,000,000 円 平成 28 年度：622,173,000 円 平成 29 年度：622,173,000 円 平成 30 年度：622,173,000 円 平成 31 年度：518,481,000 円	平成 24 年度の労務単価、供用面積 に換算した平成 28 年度の実施経費： 288,316,592 円  < 供用面積 > 平成 24 年度：39.5ha 平成 28 年度：81.7ha
削減額 (C) = (A) - (B)	< 平成 28 年度との比較 > 333,260,000 円	< 平成 28 年度との比較 > 596,408 円
削減率 (C / A × 100)	< 平成 28 年度との比較 > 115.35%	< 平成 28 年度との比較 > 0.21%

### 3. その他（特記事項に係る経緯等）

改善指示・法令違反行為はなかった。

### 4. 評価委員会等からの評価

平成 30 年 5 月に近畿地方整備局国営公園運営維持管理業務有識者委員に本業務の実施状況を説明し、引き続き新プロセスによる市場化テストを継続することが妥当とされた。

### 5. 評価のまとめ

#### （1）評価の総括

淡路地区において、利用者数については、「達成すべき包括的な質」について、平成 28 年度は 1,104 人の未達であったが、平成 29 年度は達成されている状況であり、イベントの誘致等により来園者が伸びていると評価できる。公園運営における公園の運営、及び公園特性を生かした植物管理については、花修景やイベントの充実等、地道に満足度の高める取り組みを行い、「達成すべき包括的な質」を達成できるようにすべきと考えられる。

神戸地区については、公園運営における公園の運営、及び公園特性を生かした植物管理について、おおむね達成できている。一方で利用者数については、「達成すべき包括的な質」が達成できない状態が続いている。平成 29 年度においては、天候による影響もあったが、広報のさらなる充実、団体利用の促進等、今後も様々な方法により利用促進を進めていく必要がある。

両地区の共通項目である、多彩なプログラムの提供、報受発信、個別業務の質については「達成すべき包括的な質」を満足できており評価できる。

#### （2）今後の方針

本業務において達成すべき質は概ね達成されており、業務に係る法令違反や競争の導入による公共サービスの改革に関する法律第 27 条に基づく業務改善指示が必要とされる状況はなかった。一方でより民間事業者の参入を促進し競争性を高めるよう検討を続ける必要があることから、次期業務においても、「市場化テスト終了プロセス及び新プロセス運用に関する指針（平成 26 年 3 月 19 日官民競争入札等監理委員会）」に基づき、引き続き新プロセスでの市場化テストを実施したい。

なお、次期業務の実施に当たっては、本業務の実施結果や、他公園における運営維持管理業務の実施状況等を踏まえ、国営公園の管理の質の向上及び一層の民間事業者の参入の促進等のため、下記の改善を図る予定である。

##### 1. 入札参加者の募集に関する改善

- ・入札公告から申請書類等の受付期限までの期間延長
- ・入札参加が期待される関係団体等への周知



- ・ 包括的な質の設定に関する改善
  - ・ 収益施設等設置管理運営業務の対象拡大
2. 配置予定者の業務実績等に関する要件の緩和
- ・ 開園期間中の業務責任者の実施体制を緩和
  - ・ 企業および配置予定者の業務実績要件の緩和